

教育と文化



自分らしく生きられる社会の実現
 もっと男性の意見を生かした男女協働
 参画社会を

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎2115

令和3年9月に、市民や事業所、市内の中学校や高校に通う生徒に対して行われた『男女協働参画に関するアンケート調査』の結果が、3月に公表されました。

その中で、特に関心を持ったのは、中学生・高校生の回答でした。

社会全体において『男性が優遇されている』と回答した割合は、男女ともに高いですが、男子生徒の回答の中に、学校の中で『女子の方が優遇されている』という意見がありました。「女子には更衣室があるが、男子にはない」とか、『LGBT(※)に関して、女子用のズボンはあるが、男子用のスカートがあるわけではない』など、なるほどと思う理由が書かれていました。

男女平等について語り、き、どうしても女性に視点がいき、社会における女性の活躍を期待したり、家庭における家事の負担を減らしたりす

ることに関心が集まりがちです。男女協働参画の研修会においても、参加者の多くが女性です。しかし、アンケート調査の中学生・高校生の回答を見て、男女協働参画の社会を目指すためには、女性だけでなく、男性の意見にも耳を傾け、男性も女性も、同じように意見を出し合う必要があると感じました。

多くの生徒が、男女協働参画社会を実現するためには、『子どものときから男女平等について学ぶ』ことの必要性を感じています。教育の場で学ぶ機会を増やすことは、『男女共同参画宣言都市』である伊万里市において、誰もが自分らしく生きられる社会を実現することにつながるでしょう。

※LGBTとは、性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称の一つです。(伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員)

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝④

● 問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎7107

染付詩文重箱 (鍋島焼)

今月は、染付詩文重箱を紹介します。

現状は二段重ねの重箱ですが、九州陶磁文化館の類品は四段なので、この作品も、もともと四段であったと思われる。

ひずみのない造形は、一つの粘土の塊からくりぬいて作ったと思われる、鍋島焼ならではの手の込んだ作品です。

段の上下に、コバルト顔料で紗綾(さや)形文を巡らしています。

ふたには隷書で、漢詩が書かれています。『茶雨』の落款があり、佐賀藩十代藩主を隠居した鍋島直正(閑叟)公が、伊勢藩主の藤堂公に求められてつくった漢詩とされています。

『鍋島直正公伝』によると、閑叟公が藤堂公に招かれた



↑ 染付詩文重箱

のは明治3年(1870年)です。鍋島藩窯が藩営から民営になったのも明治3年とされるので、この作品は、その年に作られた最後の鍋島焼の一つとなります。

制作年代が明らかでない点が貴重で、また、鍋島藩窯では最後まで、この作品のような優れた作品が作られていたことがわかります。

● 伊万里・鍋島ギャラリー ☎22267